

総合医薬学研究所 博士後期課程 看護科学プログラムの三つのポリシー 【 博士(看護学) 】

<p align="center">大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p align="center">研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>博士後期課程看護科学プログラムは、豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成することを目的とする。</p>
--	--

プログラムの養成する人材像

看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する実践的研究者

① 社会の変化に即した「看護学」の学問発展に寄与できる看護学の教育研究者
 ② 個人及びコミュニティの尊厳を重視した全人的・包括的な医療を看護学の切り口からアプローチできる看護実践者・指導者をエンパワーできる看護学研究者
 ③ 「東洋の知」と西洋医療の統合に立脚した看護実践知を開発・創造できる看護学研究者
 ④ 国内外地域住民の生活文化に寄与できる看護学研究者

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】</p> <p>看護学の研究者として一連の研究プロセスを自律して遂行・展開でき、又は高度な専門性が求められる看護実践の多様な領域で、研究マインドに基づいた実践・教育・管理能力とその基礎となる豊かな学識を身に付けている。</p> <p>上記の人材の育成を目的に、以下に示す「基盤的能力」「専門的学識」「倫理観」「創造力」を身に付け、十分な学修成果を上げた者に博士(看護学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】</p> <p>看護科学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を体系的に修得できる教育課程を編成する。</p> <p>看護学専門領域における研究や学際的な動向について多角的に情報を収集し、普遍性の高い看護実践・教育を導く看護理論の構築に寄与するとともに、個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視した全人的・包括的な看護の視点を踏まえた研究活動を自律して遂行・展開できる能力を修得する教育課程を編成する。</p> <p>全人的・包括的な看護の専門的な職業人として、国際的にも信頼され通用し、卓越した実践能力を研鑽し、看護専門領域の高度専門職業人を教育・指導・管理できる能力を体系的に修得する教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】</p> <p>看護科学プログラムにおける教育は、授業科目の履修と学位論文の作成に関する指導により実施する。</p> <p>①1年次より、学位論文の研究計画を検討・作成する。各自の研究課題に関する概念を明確にし、妥当性のある研究方法を立案する能力を獲得するために選択科目を置く。 ②2年次前期までに学位論文研究計画と倫理手続きを遵守し研究を遂行する。また3年次までに科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた博士(看護学)学位論文を作成するために、研究計画審査、中間報告会及び論文審査(予備・本審査)を編成し実施する。</p>	<p>【入学受入れの方針】</p> <p>看護科学プログラムは、豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践の改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成することを目的とする。この目的を理解し、次の資質をもつ学生を求める。</p> <p>①看護学とその学際領域における幅広い深い学識を持ち、一連の研究プロセスを網羅的に立案・展開できる研究能力を身に付けている。 ②看護の現状認識と将来の展望に立って保健医療福祉の課題を総合的・組織的に把握し、解決を図ることができ、看護の高度で専門的職業人として国際的にも信頼・通用する卓越した知識・能力を身に付けている。</p> <p>【入学選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書(成績等)により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等、看護研究遂行能力を評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】

<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 幅広く豊かな学識と各々の専門分野における高度な知識・研究能力を基盤に、看護の対象者を全人的な観点から理解し、教育・研究・社会貢献に取り組むことができる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 社会の変化に即した「看護学」の学問発展に寄与する。 「東洋の知」と西洋医療の統合に立脚した看護実践知を開発・創造できる。 国内外地域住民の生活文化に寄与する。 大学院共通科目、研究科共通科目の修了要件単位を修得していること。 学位論文本審査に合格すること。</p>	<p>【学修内容】 看護対象を捉えるための看護理論、看護学を追究する研究方法を修得、統合医療の観点からのアプローチを修得できる教育課程を編成し、実施する。 また、博士として身に付けるべき幅広い知識の修得のために、大学院共通科目、研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」の講義・演習を実施する。</p> <p>【学修方法】 看護理論を実践の場での活用の観点から理解し、各理論の考え方・発展させる方法を学修する。 看護理論構築に必要な、看護対象の捉え方、看護学体系に位置づけ構築プロセスを学修する。 種々の看護研究方法の特徴及び適用範囲、限界等を理解し、看護学の研究的アプローチの方法を学修する。 大学院共通科目、研究科共通科目は講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)・演習により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、中間報告会及び論文審査(予備・本審査)において、自身の看護学研究としての厳密性(学術性)に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。 大学院共通科目、研究科共通科目は試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 看護学としての学術性の高い研究を実施することの意義を理解し、価値を置いている。 生涯学習能力を身に付け、自身のキャリア形成に研究的アプローチが意義づけられている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 専門的な知識・技術の必要性が強調されるなか、個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視し、看護の対象者を全人的な観点から理解でき、その知見を看護本来の機能に立ち回り、実践現場で活用し、教育研究に還元する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 社会の変化に即した「看護学」の学問発展に寄与する研究課題が検討できる。 「東洋の知」と西洋医療の統合に立脚した看護実践知を開発・創造できる。 国内外地域住民の生活文化に寄与する研究課題が検討できる。</p>	<p>【学修内容】 人間の本来の在り方から全人的な個としての在り方、環境との相互関係で成長発達していく在り方、さらに、社会でのケアシステムの中での在り方、の三側面から看護対象を捉えることにより、研究課題・目的を設定、研究方法を選択の上、新規性、実践領域への応用性、厳密性(学術性)を備えた博士(看護学)学位論文を作成する教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 統合医療における看護学の役割を明らかにする方法を学修する。 個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視し、全体性に対して看護が働きかけていくプロセスを学修する。 看護対象、研究課題に適した研究方法を選択・決定していくプロセスを学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、中間報告会及び論文審査(予備・本審査)において、自身の研究の実践領域への応用性に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 看護の実践領域に寄与するために、専門的で学術性の高い研究アプローチの意義を理解し、価値を置いている。 看護の実践領域における創造的・革新的な研究アプローチに関心があり、価値を置いている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 看護の学識として責任と役割を果たす上での基盤となる看護哲学を身に付けている。 自らの看護及び人生経験を通して看護観や世界観を深めていくと同時に、普遍性を有する看護哲学を追究し続けることができる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 科学の歴史や哲学を看護(学)との関連で理解できる。 看護倫理について深く理解できる。 看護の学識としての倫理観を備えられる。 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」の単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 普遍性を有する看護哲学を追究し続けるため、道徳を逸脱しない科学や看護の発展を見極める高い倫理観を培う教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 看護倫理、科学者の倫理について学修する。 地域の機関・専門職と共同して、社会の弱者に対する倫理的課題に向けた取り組みについて学修する。 個人や集団の持つ文化及び倫理的側面を理解した上で看護実践について学修する。 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」では、講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 中間報告会及び論文審査(予備・本審査)において、自身の研究倫理に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 看護学領域の研究を自律して遂行するにあたり、倫理的配慮を貫く意思を有している。 これまでの研究倫理のなか、研究倫理的意義が無い、あるいは疑義に対して、他の研究者に納得のいく説明ができる。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 「実践の知を集積した学問」であるところの看護学の、学問体系構築に寄与しうる知見を蓄積し、研究手法について開発できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 高度な先端医療技術を中心とした看護実践と基礎教育に、個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視し、より実践可能な方路を創造的、斬新で革新的な研究マインドで取り組む能力を醸成する。</p>	<p>【学修内容】 看護や教育の実践現場における優れた技術の科学的な根拠を追究し、理論化に向けた分析方法を教授し、看護学教育方法を開発する教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 看護理論の創出、評価・尺度の開発、システム化を目指し、看護実践の質向上に寄与する教育研究を学修する。 ヒトの生体防御システムから、人間の健康、病気、回復を捉え、看護の新たな知の創出を目指す教育研究を学修する。 コミュニティでの生活を支えるため、個人・家族・地域・政策等を総合的に捉え、人々の持つ力を引き出すマネジメントにより、看護の新たな知の創出を目指す教育研究を学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、中間報告会及び論文審査(予備・本審査)において、自身の研究の新規性に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 看護学の実践的研究者として、生涯において研究を遂行していく意思を有している。</p>

総合医薬学研究所 博士後期課程 先端薬科学プログラムの三つのポリシー 【博士(薬科学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

博士後期課程先端薬科学プログラムでは、薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性とともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成することを目的とする。

プログラムの養成する人材像

薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性、患者の病気や立場を理解できる医学的素養、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観を持ち、人々の健康と学術研究の進歩という高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 博士後期課程先端薬科学プログラムでは、医薬品の分野横断的な専門知識と研究倫理を学び、幅広い知識を基盤とする高い専門性と、医学的素養を含む豊かな創造力、人間尊重の精神を基本とする総合的な判断力を培い、薬科学及び学際的領域の最先端研究を遂行する研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家としてその分野を先導し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材の育成を目指す。 この目的に基づき、下記の学修成果の到達目標に定める「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、所定の課程を修め必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び試験に合格した学生に、博士(薬科学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 博士後期課程先端薬科学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、大学院共通科目、研究科共通科目、プログラム専門科目を体系的に編成して、講義、演習、特別研究を適切に組み合わせた授業科目を開講するとともに、博士論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・大学院共通科目では、研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力、発信力を修得する。 ・研究科共通科目では、医療に携わる者として身に付けるべき知識、スキル、リテラシーを修得する。 ・プログラム専門科目では、先進的で高度な専門知識を修得する。 ・演習ではプレゼンテーション能力・論理的思考力・問題解決能力を修得する。 ・特別研究では、研究の計画立案力・遂行能力・問題解決能力を修得する。</p> <p>各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。博士論文は、学位論文評価基準に基づき、論文審査と口頭試問によって評価する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 博士後期課程先端薬科学プログラムでは、将来、薬科学及び学際的領域の最先端研究を遂行する研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家としてその分野を先導し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的としている。そのためには、医薬品の分野横断的な専門知識と人間尊重の精神を基本とする高い倫理観の下で、薬科学に関する幅広い学識と高い専門性を備え、それらを統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、新たな知見を見いだして課題を解決する能力を身に付けることが必要である。この目的に基づき、本プログラムでは以下のような学生を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬科学及び学際的領域の最先端で活躍する研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家を志す者。 ・創薬科学、生命科学に関する専門知識を有する者。 ・疾病を理解した上で、研究を通じて、薬科学関連領域の諸課題を解決し、分野を先導して人々の健康と学術研究の進歩に貢献したいという意欲を持つ者。 ・国内外の研究者に対して研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力、発信力を持つ者。 <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。一般入試、外国人留学生特別入試では、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究遂行に必要な最先端創薬に関する幅広い学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 選択科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 領域横断的な最先端創薬に関する知識と技術の修得のために、特論、実習、インターンシップ等を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び実習形式により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 大学院修士課程修了相当の薬科学の専門知識及び語学力を身に付けている。 薬科学関連領域の幅広い知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 薬科学及び学際的領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者、及び医薬品の創製、開発、生産、普及を担う専門家として必要な専門知識、技術を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 プログラム専門科目「先端薬科学特別演習」及び「先端薬科学特別研究」の単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 薬科学及び学際的領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者、及び医薬品の創製、開発、生産、普及を担う専門家として必要な専門知識、技術を修得するために、プログラム専門科目の講義及び実習・演習・特別研究を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義は、対面又は多様なメディアを高度に利用することにより学修する。演習では、各分野における背景、課題及び最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。 特別研究では、各分野における背景に基づいて課題を設定し、その研究課題に取り組みながら、先端的分野の専門知識や技術について実践的に指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。 演習・特別研究では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 高度な専門知識、技術の修得のために必要な基盤的専門知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」の単位を修得していること。 剽窃検査ソフトによる学位論文のチェックで問題がないこと。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」を実施する。</p> <p>【学修方法】 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」については、多様なメディアを高度に利用することにより学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」を履修した上で、法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 医薬品に関わる者として適切な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 薬科学関連領域における背景を理解した上で解決すべき課題を設定し、専門知識、技術を統合、応用して創造性の高い研究により新たな知見を見いだして課題を解決する能力、並びに研究成果の学術的、社会的意義を説明、議論し、国際社会に発信できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 博士の学位論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】 創造性の高い研究により薬科学関連領域の課題を解決する素養と、研究成果やその価値を説明、議論できる能力を養成するために、大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」を実施する。またプログラム専門科目「先端薬科学特別研究」において研究成果をまとめて博士の学位論文を作成するとともに、研究業績発表会にて発表を行う。</p> <p>【学修方法】 論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、研究発表を行い、学位論文を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。また研究業績発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく学位論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 薬科学関連領域の最先端研究に取り組み、研究成果を国際社会に発信し、社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>

総合医薬学研究科 博士課程 生命・臨床医学プログラムの三つのポリシー 【 博士(医学) 】

<p style="text-align: center;">大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>博士課程生命・臨床医学プログラムでは、疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、医学/薬学/看護学の連携を理解した世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成する。</p>
---	--

<p>プログラムの養成する人材像</p> <p>基礎研究のみならず臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材及び医学/薬学/看護学の連携を理解した世界の医学・医療をリードできる複眼的人材</p>
--

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 修了要件を満たした次の者に、博士(医学)の学位を授与する。 1) 基盤的能力: 基盤となる豊かな学識や俯瞰的、大局的視野 2) 専門的学識: 専攻分野における自立した研究者としての研究能力、および高度の専門性を要する職業に必要な卓越した研究能力 3) 倫理観: 研究倫理に関する規範意識 4) 創造力: 自らが新たな知を創造し、その知からさらなる価値を生み出す能力 5) 各臓器の障害や疾病の原因解明及び治療、予防に関する知識や開発能力 6) トランスレーショナルリサーチへの展開能力 7) 医学の知識とそれを活用した研究を行う能力</p>	<p>【教育課程編成方針】 学生が所属する研究室における個人指導により医学研究の基礎専門知識と技術を修得させる。また、新規性、学術的重要性、臨床的発展性を含む学位論文の作成と発表を指導する。幅広い医学の基盤的能力、高度な専門的知識、倫理観を修得させるために、幅広い選択科目、学外講師による大学院特別セミナーなどを設置するとともに、研究倫理や医学学のプロフェッショナルとして必要な研究方法論の受講・修了を義務付ける。また、各臓器の障害や疾病の原因解明及び治療、予防に関する知識、開発能力が身に付く教育課程、トランスレーショナルリサーチへの展開を行える教育課程、研究を行う能力が身に付く教育課程を編成する。 【教育課程実施方針】 所属研究室を中心に学生による能動的な学修を行う。1-3年次には、幅広い講義科目、実習科目を履修し、医学の基盤的能力、高度な専門的知識、倫理観を修得させる。4年次には学位論文の作成と発表を指導する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 ・医学・医療の分野における最先端の研究に取り組みたい人材を求める。 ・医学・医療の教育研究に対する熱意と能力があり、将来の国内外の医療・医学に貢献する意欲のある人材を求める。 ・他分野の多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけ、医学・医療の分野における最新の研究を志す人材を求める。 【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般学生の他、外国人留学生等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。一般入試では、外国語試験(外部英語試験)、口述試験及び成績証明書(成績)により、6年制医学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p>【学修成果の到達指標】</p>	<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p>	<p>【求める資質・能力】</p>
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究分野における専門的な情報収集、課題発見と論理的思考、情報発信ができる。英語論文の専門的な読解と解説ができる。研究内容について他者と専門的な議論ができる。</p> <p>【到達指標】 幅広い専門領域の中から選択科目を履修し、単位を修得している。研究室や履修科目において、研究分野の知識や論文内容について議論できる能力を身に付けている。専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる能力を身に付けている。 総合医薬学研究科で定める修了要件に必要な授業科目の単位を修得している。</p>	<p>【学修内容】 専門分野における知識の修得、課題発見、英語論文の読解と紹介を行う。</p> <p>【学修方法】 能動的な学修による情報の収集、研究計画立案、関連論文の収集と読解を学修する。 カリキュラムの必要な単位数に応じて学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 各授業科目で実施する試験、レポート、プレゼンテーション等により、成績評価基準に基づいて評価する。執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 研究分野に対する知的興味を持ち、能動的な学修を行い、基本的な英語論文読解力を有し、他者と論理的に基本的な議論をすることができる者</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 自立した研究者として専門分野における研究課題を把握し、その解決方法が提案できる。研究成果を専門分野の論文や学会で発表できる。</p> <p>【到達指標】 自立した研究者として専門分野の知識や論文内容について議論できる能力を身に付けている。専門分野の学会等において、専門的な情報収集、議論、情報発信ができる能力を身に付けている。</p>	<p>【学修内容】 専門分野における知識の収集、仮説検証のための調査や実験の実施を行う。</p> <p>【学修方法】 プログラム専門科目の履修、研究室での論文の紹介や研究結果の発表、専門学会での研究成果の発表と議論を学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表を、学位論文評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 能動的に学修し、関連分野の知識や論文内容について議論できる基本的な能力と、専門知識を収集する基本的な能力を有する者 社会及び生命科学に関する倫理と安全に対して高い意識を有する者</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究不正について説明でき、研究倫理に関する高い規範意識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 大学院共通科目「研究倫理」、研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」の単位を修得していること。研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組み換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講していること。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p>【学修方法】 大学院共通科目「研究倫理」及び研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」では、講義(多様なメディアを高度に利用)により学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 大学院共通科目「研究倫理」、研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付け、プロフェッショナルとしての高い倫理観を志す者</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 査読のある専門分野の学術雑誌に原著論文を発表できる。専門分野の学会で研究成果発表ができる。自分の研究成果をもとに、次の研究課題の設定と解決方法の考察ができる。</p> <p>【到達指標】 大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅱ」にて発表し、研究成果を広く伝える能力を身に付けている。学術雑誌に投稿する論文を執筆できる能力を身に付けている。学会等で、議論できる。博士学位論文審査及び最終試験を受け、合格の判定を受けていること。</p>	<p>【学修内容】 原著論文の作成方法、学会等での発表準備方法を学修する。</p> <p>【学修方法】 大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」では、研究成果を広く伝える能力を学修する。能動的な学修による原著論文作成、学会発表の準備を行い、実践する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 幅広い知的興味と創造性を高く評価し、研究成果をもとに、次の研究課題の設定と解決方法の考察ができる者</p>

総合医薬学研究科 博士課程 臨床薬学プログラムの三つのポリシー 【博士(薬学)】

<p>大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>博士課程臨床薬学プログラムでは、臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性ととも、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成することを目的とする。</p>
--	--

<p>プログラムの養成する人材像</p> <p>臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性と疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を持ち、かつ人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と人々の健康と学術研究の進歩という高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 博士課程臨床薬学プログラムでは、医療者の分野横断的な専門知識と研究倫理を学び、多様で幅広い知識や造詣を基盤とする高い専門性と、医療者としての先端的な知識・技能・態度を含む豊かな創造力、人間尊重の精神を基本とする総合的な判断力と卓越したリーダーシップを涵養する。 そして、臨床薬学を中心とした薬学領域の教育者・研究者、チーム医療を推進する薬剤師、社会的リーダーとして活躍する薬剤師、行政職員、医薬品製造・開発者及び医薬連携の実践や健康医療・公衆衛生科学の開拓を担う専門家としてその分野を先導し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材の育成を目指す。 この目的に基づき、下記の学修成果の到達目標に定める「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付け、所定の課程を修め必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び試験に合格した者に、博士(薬学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 博士課程臨床薬学プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、大学院共通科目、研究科共通科目、プログラム専門科目を体系的に編成して、講義、演習、特別研究を適切に組み合わせた授業科目を開講するとともに、博士論文作成のための研究指導を行う。 【教育課程実施方針】 ・大学院共通科目では、博士として身に付けるべき知識、スキル・リテラシーを修得するとともに、研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力、発信力を修得する。 ・研究科共通科目では、医療に携わる者として身に付けるべき知識、スキル・リテラシーを修得する。 ・プログラム専門科目では、先進的で高度な専門知識を修得する。 ・演習科目ではプレゼンテーション能力・論理的思考力・問題解決能力を修得する。 ・特別研究科目では、研究の計画立案力・遂行能力・問題解決能力を修得する。 各科目の評価基準・方法はシラバスに示す。博士論文は、学位論文評価基準に基づき、論文審査と口頭試験によって評価する。</p>	<p>【入学受入れの方針】 博士課程臨床薬学プログラムでは、将来、臨床薬学を中心とした薬学領域の教育者・研究者、チーム医療を推進する薬剤師、社会的リーダーとして活躍する薬剤師、行政職員、医薬品製造・開発者及び医薬連携の実践や健康医療・公衆衛生科学の開拓を担う専門家としてその分野を先導し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的としている。そのためには、医療者の分野横断的な専門知識と人間尊重の精神を基本とする高い倫理観の下で、臨床薬学を中心とした薬学に関する多様で幅広い学識と高い専門性を備え、それらを統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、新たな知見を見いだし課題を解決する能力を身に付けることが必要である。この目的に基づき、本プログラムでは以下のような学生を求めている。 ・地域から国際レベルに至る薬学系諸分野で活躍する高度薬剤師・医療職業人・研究者・教育者・行政職員・医薬品製造・開発者を志す者。 ・臨床薬学、生命科学および薬学関連領域に関する専門知識を有する者。 ・最先端の薬学研究を実践して、臨床薬学を中心とした薬学関連領域の諸課題を解決し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献したいという意欲を持つ者。 ・国内外の研究者や医療従事者に対して研究や薬剤師業務の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力を持つ者。 【入学選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 多様な学生を受入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学選抜を実施する。また、外国人留学生特別入試を実施する。一般入試、外国人留学生特別入試では、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口頭試験及び成績証明書の成績により、6年制薬学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p>【学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p>	<p>【求める資質・能力】</p>
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究遂行に必要な基礎及び臨床薬学に関する知識、疾患に関する幅広い学識と総合的な判断力を身に付けている。 【到達目標】 大学院共通科目及び研究科共通科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 臨床薬学領域を含む、博士として身に付けるべき幅広い知識の修得のために、大学院共通科目及び研究科共通科目の講義を実施する。 【学修方法】 講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 6年制学部卒業レベルの薬学の専門知識及び語学力を身に付けている。 臨床薬学関連領域の幅広い知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 臨床薬学やデータサイエンス等を基盤とした先端医療に関連する領域で自立的に活躍する「研究者・教育者・薬剤師・行政職員、医薬品製造・開発者」として必要な専門知識、技術、態度、並びに疾病の理解を含む医学および薬学的素養を身に付けている。 【到達目標】 プログラム専門科目の講義、実習・演習・特別研究の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 臨床薬学を中心とした薬学関連領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を修得するために、プログラム専門科目の講義及び実習・演習・特別研究を実施する。 【学修方法】 講義は、対面又は多様なメディアを高度に利用することにより学修する。演習では、各分野における背景、課題及び最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。 特別研究では、各分野における背景に基づいて課題を設定し、その研究課題に取り組みながら、先端的分野の専門知識や技術について実践的に指導を受ける。 【学修成果の評価方法】 講義では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。 演習・特別研究では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 高度な専門知識、技術の修得のために必要な基盤的専門知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。 【到達目標】 大学院共通科目「研究倫理」の単位を修得していること。 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」の単位を修得していること。 剽窃検査ソフトによる学位論文のチェックで問題がないこと。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。 【学修方法】 大学院共通科目「研究倫理」及び研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」は、講義(多様なメディアを高度に利用)により学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。 【学修成果の評価方法】 大学院共通科目「研究倫理」では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。 研究科共通科目「医薬学プロフェッショナル研究論」を履修した上で、法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 医療者、医薬品に関わる者として適切な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 臨床薬学関連領域における背景を理解した上で解決すべき課題を設定し、専門知識、技術を統合、応用した創造性の高い研究により新たな知見を見いだして課題を解決する能力、並びに研究成果の学術的、社会的意義を説明、議論し、国際社会に発信できる能力を身に付けている。 【到達目標】 大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。 博士の学位論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】 創造性の高い研究により臨床薬学関連領域の課題を解決する素養と、研究成果やその意義、価値を説明、議論できる能力を養成するために、大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」を実施する。また臨床薬学特別研究において研究成果をまとめて博士の学位論文を作成するとともに、研究業績発表会にて発表を行う。 【学修方法】 論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、研究発表を行い、学位論文を完成させる。 【学修成果の評価方法】 大学院共通科目「学際融合発表演習Ⅰ・Ⅱ」では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。また研究業績発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく学位論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 臨床薬学関連領域の研究成果を国際社会に発信し、社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>